

都市再生整備計画 事後評価シート
さんぶの森地区

平成24年3月

千葉県山武市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県		市町村名	山武市		地区名	さんぶの森地区			面積	730ha	
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	833.8百万円	国費率	0.4			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
	基幹事業		(道路)白玉戸田線、美杉野29号線 (地域生活基盤施設)広場 (高次都市施設)さんぶの森交流センターあらかぎ館(センター本館・駐車場)									
	提案事業		(地域創造支援事業)市役所支所窓口									
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	新たに追加した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
交付期間の変更		当初	平成19年度～平成23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
		変更	-									
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	交流活動の満足度	%	13.0	H18	15.6	H23	19.4	○	あり なし	住民要望の高かった交流の場としてのあらかぎ館が開館し、市民、各種団体により交流活動が展開されているため、本指標が改善された。	-
	指標2	交流の場についての満足度	%	16.0	H18	19.2	H23	28.4	○	あり なし	あらかぎ館には単に貸し室だけでなく、パソコンや印刷機の利用、また無線LAN設置など設備も整備されたことにより、利用者の利便性も高まり、本指標が改善された。	-
	指標3	交通利便度	分	23	H18	17	H23	17	○	あり なし	あらかぎ館(本館及び周辺施設)が山武地区の住民だけでなく地区外住民の利用を促すよう、道路整備によりアクセス性を改善した。なお事後評価時点では白玉戸田線(改良工事)が完了していないが、完了したものと評価している。	平成25年3月
	指標4									あり なし あり なし		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4) 定性的な効果発現状況	平成22年10月に開館したあらかぎ館とバイオマス体験棟の平成23年9月末までの約1年間の利用者数は、あらかぎ館の多目的室は448件(平均37件/月)、バイオマス体験棟は7,055人(平均587人/月)の利用である。特にバイオマス体験棟は小学生の利用も多く、学校との連携により子どもたちが実践を交えながら環境や地域の資源について学ぶ機会を設けることで、将来を担う世代への教育効果が期待できる。											
5) 実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等	
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	交流センターのオープン前に、館の名称を公募した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 施設の名称を含め、活動内容を市内へ周知する。	
	持続的なまちづくり体制の構築	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

さんぶの森地区(千葉県山武市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標:豊かな自然の中で、人々が集い交流する健康で元気なまち 目標1:健康づくりへの関心が高まってきていることから、山武杉の美しい森林と公園、健康福祉施設(さんぶの森元気館)、スポーツ広場、テニスコート、野球場などを活用した健康づくりの拠点として、新生山武市の市民が一体となり交流する元気なまちづくりを推進する。 目標2:人々が安らぎを求め、快適に生活できる環境をつくるとともに、周辺地域との交流が促進される、やすらぎのあるまちづくりを目指す。 目標3:地域のコミュニティ活動の支援や、環境の整備により人と人、人と自然が触れあえるまちづくりを推進する。	交流活動の満足度	単位:%	13.0	H18	15.6	H23	19.4	H23
	交流の場についての満足度	単位:%	16.0	H18	19.2	H23	28.4	H23
	交通利便度	単位:分	23	H18	17	H23	17	H23



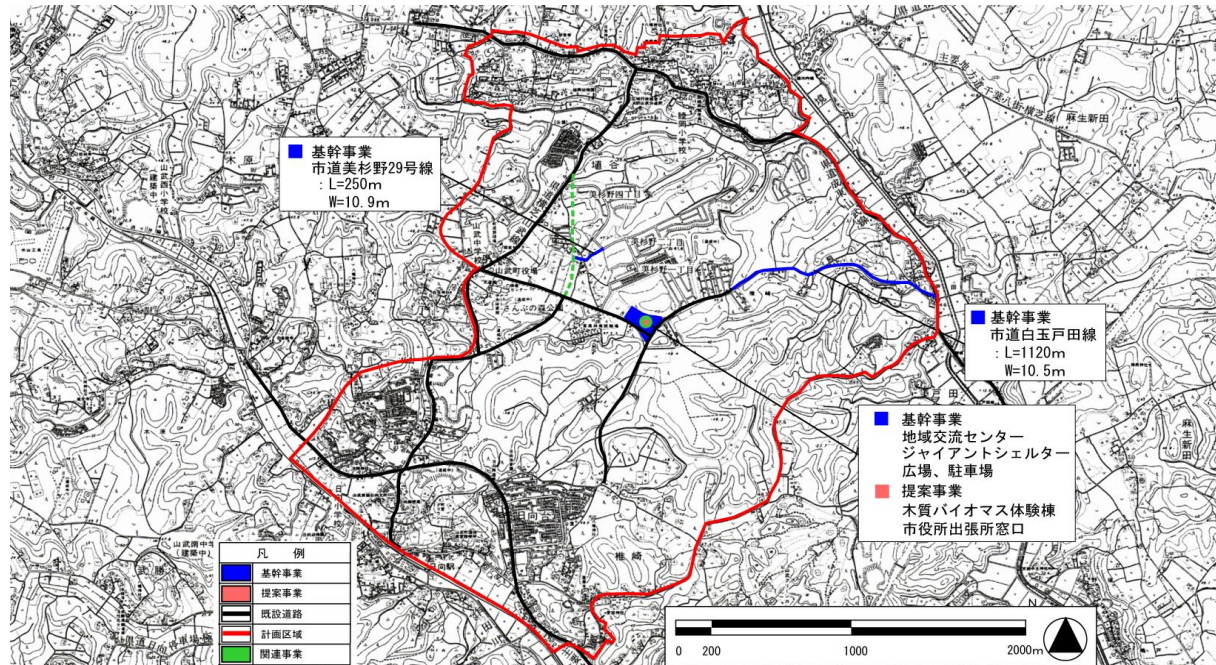
さんぶの森交流センターあららぎ館(前面)



館内の市役所出張所窓口



交流センターホール部分



市道白玉戸田線



ジャイアントシェルター



木質バイオマス体験棟

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 当該地区の中心であるさんぶの森地区は、新市の健康文化交流の拠点地区として、地域活性化や合併後の住民の円滑な交流が求められていたが、さんぶの森交流センターを整備したことにより、交流活動の満足度、交流の場についての満足度が向上した。 当該地区の自然を活かした住民の憩い、やすらぎの場としての整備が望まれていたが、山武杉を生かしたさんぶの森交流センターの整備や木質バイオマス体験棟の整備により、それらを実現することが出来た。 当該地区には、さんぶの森公園、健康福祉施設(さんぶの森元気館)、スポーツ広場、テニスコート、野球場、図書館、文化ホール、中央会館などの公共施設が集積しており、これらの施設への合併地域からの道路網の整備が求められていたが、市道白玉戸田線の整備により合併地域からの交通アクセスの利便性が向上した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動を活発にするために、今後、地域内の施設のPRとともに、地域住民と一緒に利用方法を検討していく。また、今後の市民の交流活動を支援するような方策も検討していく。 木質バイオマス関連のイベントを開催し、木質バイオマスの普及啓発を目指す。また、学校との連携により、子供たちが環境や地域の資源について継続的に学ぶことが出来るよう目指す。 地区の来訪者がさんぶの森公園、元気館、あららぎ館等をスムーズに周遊できる環境づくりを目指す。 事業を地域住民に興味を持っていただけるように、周知徹底に努める。 ジャイアントシェルターの利用件数は約1年間で7件と利用件数が少なく、もっと多くの人や団体に利用してもらうために、またあららぎ館の利用者をさらに増やすために、イベントの企画・開催が求められている。